

令和5年度 福井県立南越特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
<p style="text-align: center;">教育課程 ・ 学習支援</p>	<p>・子どもたちに育てたい力、育ちの姿(変容)を様々な観点から見取りながら、授業や支援が最適であったかどうかを振り返り、次に生かす。そのために、単元(題材)案や指導案の作成や修正および、児童生徒の記録の工夫を行う。</p> <p>・各学部に1名の外部講師を迎えて、指導助言を受けながら授業研究の充実と専門性の向上を図る。</p>	<p>各学部の対象授業について、小学部は3観点の目標・評価を見ていく「題材振り返りシート」や「目標・評価シート」、中学部は生徒に応じた観点を設けた「コミュニケーションサンプル」を活用しながら、グループで子どもの見取りや授業を検討していくことができた。高等部は、学年により、単元シートを作成して評価を行ったり、前年度の生徒の育ちを生かした授業づくりに取り組んだりすることができた。また、各学部2回ずつ、昨年度から継続の外部講師を交えた研究会を実施した。対象の授業について外部講師に継続して助言を受けながら研究を進めたことで、子どもの見取りや授業づくりに対しての積み上げや深まりが見られた。教員評価では、「目標・支援・評価」のつながりを考えながら授業づくりを行うことができたと評価をした教員が9割以上であった。</p>	<p>学部によっては、単元シートや記録シート等を使用することで、研究会や授業づくりにおいて、教員間での話し合いがより効率よくなった。今年度使用したツールを次年度も改善を加えながら活用していきたい。そして、それらが授業づくりのPDCAに位置付けられ、十分に生かされるようにしていきたい。また、子どもを見取るための教員の専門性が高まるよう、子ども理解の研修も企画したい。</p>
<p style="text-align: center;">生活支援 ・ 安全支援</p>	<p>・学校行事等において子どもたちが明るく元気に活動し日ごろの学習の成果を発表できるように計画及び運営を行う。</p> <p>・子どもたちが活動を通してつながりを感じることができるよう支援する。</p>	<p>小中学部の体育発表会と高等部スポーツの日、小中学部の学習発表会と高等部文化祭において、お互いが交流できるように、それぞれの予行練習の見学を呼びかけたが、見学時間を調整することが難しい様子が見られた。その中でも小低学習発表会の予行練習を高等部生徒が、高等部文化祭の予行練習を小中学部の児童生徒が見学した。執行委員会が中心となり開催した高等部集会に他学部の幼児児童生徒の参加を呼びかけたところ、40名程度が参加して学部間の交流を図ることができた。アンケート結果から、9割以上の保護者が、子どもたち同士のつながりを感じることができたという回答しているが、他学部の発表の様子をみたいなどと回答した保護者も1割弱いた。</p>	<p>スポーツの日や文化祭については、児童生徒数の増加により、感染対策が必要となる前から検討課題だったため、来年度以降も体育発表会・高等部スポーツの日や学習発表会・高等部文化祭は、学年、学部ごとの開催になると考えられる。その中で子どもたちがつながりを感じるようにするためには、活動の様子を見学し合ったり、他学部の保護者が見学できたりする方法を検討していく必要がある。また、高等部集会に小中学部生が参加するなど、他学部の活動に参加する機会を増やしていきたい。</p>
<p style="text-align: center;">進路支援 ・ 生活支援</p>	<p>・進路説明会の開催や、進路相談、進路だより、情報集の発行を通じて、児童生徒、保護者、教職員に情報を提供する。</p> <p>・小、中、高等部それぞれで進路説明会を開き、生活・就労を支援する制度、進路学習の流れ、制度利用の手続きなど、各年代のニーズに沿った情報を提供する。</p> <p>・「何でも相談会」の再開に向け、内容を再検討するとともに、丹南地区自立支援協議会との共催を模索する。</p>	<p>進路説明会をPTA総会に合わせて開催し、全学部の保護者に進路状況や福祉制度について説明した。進路だよりを発行し、実習や職場見学の様子を知らせた。学部毎の進路説明会は、各学部の学習発表・文化祭の時に行なっていたが、今年度は保護者の座談会が開催され、保護者同士が率直に意見交換・情報共有する場を用意できた。福井市が再開した相談会の概要を丹南地区自立支援協議会に知らせ、協力を働きかけた。</p>	<p>全校保護者への進路説明会はPTA総会に合わせて開催を継続する。各学部毎の進路説明会は、各学部、渉外部と開催方法を相談しながら開催する。小学部、中学部の保護者を対象にした事業所見学会を継続的に開催し、高等部進学までに保護者がより多くの情報を得られるようにする。保護者が、福祉制度や丹南地区の事業所の情報を一度に得られる相談会の開催のため関係機関への働きかけを継続する。</p>

令和5年度 福井県立南越特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
地域支援	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスやグループ、学部会等で事前、事後に話し合う機会を設け、目標を共通理解したり、双方の配慮点を確認するなどして、成果や課題を整理しながら活動の充実に努める。 	<p>今年度は直接交流を再開することができた。学校間交流では、事前にお互いの学校の担当教員同士の打ち合わせを数回行った。本校教員による理解啓発授業を行ったりして充実した取組みとなった。居住地校交流においては、希望者が多いこともあり、1学期からそれぞれの児童生徒の担当教員が相手校との打ち合わせを行い、児童生徒によっては数回に渡り交流を行うことができた。地域交流では、近隣高校と音楽を通じた交流をしたり、地域寺院や農園、施設等の交流事業を継続して行ったりすることができた。児童数の増加にともない居住地校交流当日に校内が人手不足になるといった課題や、手続きや準備等の負担増についても早急に対応することが必要となる。</p>	<p>交流に係る手続きや打ち合わせ、報告は、適切に効率的に行えるようにさらに工夫する。引率に関わる校内体制については、全校でその体制を考えていく必要がある。相手校の受け入れ体制や保護者の付添や引率などもその都度確認して、交流事業の負担軽減を考える。また、作業学習など日ごろの学習活動に、オンライン交流や作品紹介、販売会、また小グループでの校外活動などの方法を取り入れ、無理のない形で近隣の地域とのつながりづくりを検討していく。</p>
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等の活性化を図り、業務の実行や自己研鑽を行う。 ・それぞれのよさや強みを生かして業務を遂行し、効率化と協働体制の充実を図る。 	<p>これまでの教育活動の形にこだわらず、現在の子どもたちの実態に応じたあり方を考える場面が、各学部会や校務部会において多く見られた。また、学部会の特性を生かし、隙間時間を活用しながら効率的に会議等を行う姿が見られた。研修では、自身を振り返り、同僚と語り合うグループ協議で学びを深めた。昨年度よりも学部や校務を解いたグループで語り合う場面を設けることができなかった。一方、自己研鑽のための研修会は自由参加としたが、9割以上の教員が参加し、若手を中心に学ぼうとする意欲が感じられた。南越の魅力・よさのアンケートを行い、学校のよさをそれぞれが言語化し再確認する機会を持った。お互いを認め、尊重し合う記述が多く見られた。</p>	<p>「学校や子ども達のために」を前提に、誰もが安心して自らの考えを述べたり、他者の意見を傾聴したりすることができるような会議の進め方の工夫が必要である。そのためには、日頃から同僚性の構築を大切にできる雰囲気作りや、会議を進める上でのファシリテートの仕方を学び合うことが大切だと思われる。また、教職員一人ひとりが自分事として、学校教育目標の達成を意識できるよう、魅力的なビジョンを示していきたい。</p>